

ま え が き

本書は、アジアの産業発展ダイナミズムの一側面を、二輪車産業という切り口から描き出そうとしたものである。先進国の多国籍企業が日々進化するなかで、独自の発展に向けてチャレンジするアジアの地場企業の実態とその方向性を考察する、そしてそこからグローバル化が進む各国における産業発展のあり方を捉え直す、というのが、本研究の基本的な視角である。研究対象として取り上げたのは、日本、台湾、中国、インド、タイ、インドネシア、ベトナムの7カ国である。

本書は、アジア経済研究所が重点研究「アジア域内経済関係展望研究」の一環として平成16～17年(2004～2005年)度実施した「アジアの二輪車産業」研究会の成果である。平成16年度には、研究の準備作業として収集したデータ資料を「アジアの二輪車産業 基礎情報と企業一覧」(ウェブ版「アジアの二輪車産業 各国二輪車産業の概要」)としてとりまとめた。関心ある読者は併せて参照いただきたい。

2年間にわたる我々の調査研究活動は、国内外の多くの関係者、度重なる訪問調査にご協力いただいた各国企業の経営者および現場スタッフの皆様のご助力なしには成り立ち得なかった。とりわけ本田技研工業株式会社およびヤマハ発動機株式会社の両社には、全面的なご協力を賜った。本田技研工業OBの松浦鼎氏には、製品開発から生産管理、海外での技術指導におよぶ包括的な産業知識をご教授いただいた。株式会社アイアールシーにはその調査成果の活用をご許可いただいた。本書をまとめる段階では、今井健一(地域研究センター)、川上桃子(新領域研究センター)の両氏、所内査読者および外部評価者の各氏からの確かつ有益なコメントをいただいた。記して心より感謝申し上げる。

技術者魂を込めて何度もご指導くださった松浦氏は、その後間もなく病に倒れ逝去された。残された貴重な知識を未熟な我々が学術的研究のなかにもどれだけ活かせたかを思うと誠に心許ないが、我々なりに苦心した成果をせめてもの松浦氏への手向けとしたいと思う。

2006年9月

編 者